

海域の概要

本湾は、宮古島南西端に存在する湾で、湾内部は広大な干潟になっています。湾内では日本で見られるシギ・チドリ類の野鳥をほとんどすべて観察することができます。



Specification

諸元

湾口幅：1.71 km

面積：636 km²

湾内最大水深：2 m

湾口最大水深：2 m

閉鎖度指標：1.47

備考：なし

Location

範囲または位置

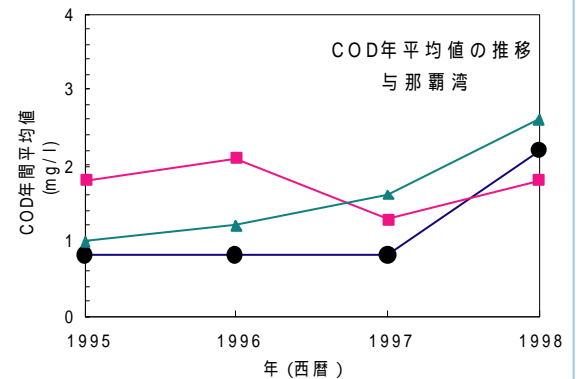
沖縄県平良市字久貝小字出口南端と宮古郡下地町西浜崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

宮古島の西岸に位置し、湾口を東シナ海の方向、伊良部島に向けて開いている非常に水深の浅い湾で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

湾内には小河川が数本流入するのみで、与那覇湾の水質は、1997年までは松原地先で1 mg/l以下と良好でしたが、1998年には2mg/l以上と悪くなっています。



自然

与那覇湾は、卵形に湾曲した遠浅の海岸で、沖合には伊良部島が湾の出口を閉ざす形で横たわっているため、静かな内海となっています。

湾内には一部に貴重なマングローブ林も分布するほか、干潮時には広大な干潟が出現し、リュウキュウスガモを主体とする藻場も広い範囲に分布しています。また、ここでは日本で見られるシギ・チドリ類のほとんどすべてを観察することができます。

湾奥には、「東洋一の白い砂浜」がキャッチフレーズの前浜ビーチが広がっています。極細砂の砂浜が7 kmも続き、静かな海面と美しいコントラストを呈しております。このビーチでは、様々なマリンスポーツが楽しめ、トライアスロン宮古島大会の水泳コースとして有名です。



前浜ビーチ

文化歴史

宮古島には、昔から旧暦の三月に浜に下り、海水で体を洗い清める「浜下り」の風習があり、「サニツ」と呼ばれるこの日には、宮古島の各地でさまざまな行事が行われ、その中でも与那覇湾（通称「サニツ浜」）で毎年行われていた「サニツ行事」は最大規模のものでした。この伝統行事は一時途絶えていましたが、平成3年、干潟の祭典「サニツ浜カーニバル」として復活しました。700haにも及ぶ広大な与那覇湾の干潟で、ふるさとの自然に親しみ、スポーツ・レクリエーションを体験するとともに、伝統行事の継承とイベントを通して都市とふるさとの交流を深め、地域の活性化を図ろうという目的で行われています。

産業

下地町の水産業は、西側の与那覇湾、南側の入江湾での沿岸漁業が主となっています。近年は、「つくりそだてる漁業」を目指してタイワンガサミ等の放流事業などが進められています。また、グリーンキャビアとも呼ばれる宮古の代表格の珍味である「海ぶどう」が湾内で採れます。

背後地では農業が営まれ、サトウキビを中心に葉たばこ、野菜などを中心に栽培されています。また、マンゴーなどの熱帯果樹や花卉類の生産を進めています。さらにパイアヤアロエペラなどの作物の導入もしています。



海ぶどう